

3) 就労していない人について

①仕事を辞めた主な理由

「障害や病気で身体的に働くことが困難になったため」という回答が最も多かったが、「職場の人間関係がうまくいかなかったため」「仕事をうまくこなしていくことができなかったため」という回答も多かった。

〈複数回答〉

	身体障害 (n=306)	知的障害 (n=56)	精神障害 (n=309)	発達障害 (n=1)	難病 (n=14)
1位	障害や病気で身体的に働くことが困難になったため (69.6%)	職場の人間関係がうまくいかなかったため (35.7%)	障害や病気で身体的に働くことが困難になったため (64.4%)	障害や病気で身体的に働くことが困難になったため (100.0%)	障害や病気で身体的に働くことが困難になったため (78.6%)
2位	仕事をうまくこなしていくことが出来なかったため (10.5%)	仕事をうまくこなしていくことが出来なかったため (30.4%)	職場の人間関係がうまくいかなかったため (30.7%)	職場の人間関係がうまくいかなかったため (100.0%)	出産や育児など家庭の事情 (21.4%)
3位	職場の人間関係がうまくいかなかったため (9.5%)	障害や病気で身体的に働くことが困難になったため (28.6%)	仕事をうまくこなしていくことが出来なかったため (20.7%)	仕事をうまくこなしていくことが出来なかったため (100.0%)	職場の人間関係がうまく行かなかったため (14.3%)
4位	出産や育児など家庭の事情 (5.6%)	仕事内容が自分には向いていなかったため (10.7%)	仕事内容が自分には向いていなかったため (11.3%)		仕事をうまくこなしていくことが出来なかったため (14.3%)
5位	仕事内容が自分には向いていなかったため (4.9%)	職場で必要な支援を受けることが出来なかったため (7.1%)	職場でハラスメント（パワハラやセクハラなど）を受けたため (11.0%)		一方的な解雇 (14.3%)
6位	一方的な解雇 (4.6%)	一方的な解雇 (7.1%)	職場で必要な支援を受けることが出来なかったため (6.8%)		職場や通勤経路のバリアフリー化が進んでいなかったため (7.1%)

「その他」の具体的例

- 精神的ストレス
- 次の仕事のため
- 店舗閉鎖の為
- 引越しのため
- 結婚のため
- 腰痛がひどくなった
- 両親の介護

【仕事を辞めた主な理由（発達障害が重複している場合のみ）】 〈複数回答〉

	調査票の障害種別			(再掲)
	身体障害 (n=9)	知的障害 (n=15)	精神障害 (n=33)	発達障害 (n=1)
1位	障害や病気で身体的に働くことが困難になったため (88.9%)	職場の人間関係がうまくいかなかったため (53.3%)	障害や病気で身体的に働くことが困難になったため (63.6%)	障害や病気で身体的に働くことが困難になったため (100%)
2位	仕事をうまくこなしていくことが出来なかったため (11.1%)	障害や病気で身体的に働くことが困難になったため (46.7%)	職場の人間関係がうまくいかなかったため (30.3%)	職場の人間関係がうまくいかなかったため (100%)
3位	/	一方的な解雇 (20.0%)	仕事をうまくこなしていくことが出来なかったため (24.2%)  仕事内容が自分には向いていなかったため (24.2%)	仕事をうまくこなしていくことが出来なかったため (100%)

備考) 調査票の障害種が難病の人の中に発達障害と診断された人はいなかったため表には含めていない。

②仕事をしていない主な理由

「障害があるため」「病気のため」が最も多い理由であるが、働く場や適した仕事がないことや、通勤の困難性も挙げられていた。

〈複数回答〉

	身体障害 (n=406)	知的障害 (n=219)	精神障害 (n=360)	発達障害 (n=17)	難病 (n=48)
1位	障害があるため (50.7%)	障害があるため (57.1%)	病気のため (70.6%)	障害があるため (58.8%)	病気のため (64.7%)
2位	病気のため (44.3%)	病気のため (20.5%)	障害があるため (30.8%)	就労のない施設 入所・通所の ため (23.5%)	働く場または適 した仕事がない ため (47.1%)
3位	働く場または適 した仕事がない ため (17.7%)	就労のない施設 入所・通所の ため (19.6%)	働く場または適 した仕事がない ため (19.7%)		働く場または適 した仕事がない ため (23.5%)
4位	通勤が困難な ため (8.4%)	働く場または適 した仕事がない ため (11.4%)	通勤が困難な ため (7.8%)	通勤が困難な ため (11.8%)	通勤が困難な ため (11.8%)
5位	高齢のため (7.1%)	通勤が困難な ため (2.7%)  働きたくない ため (2.7%)	働きたくない ため (7.5%)	/	家事・子育ての ため (11.8%)  リハビリ中の ため (11.8%)

「その他」の具体的例

- 家族の介護のため。
- 結婚後は専業主婦に。
- 雇用先がない。
- 再任用の面接で、脚に障害があることで悲しくなる質問をされた。
- 重度心身障害のため、寝たきり。
- 週に1回もしくは2回 2週に1度病院に行かないといけない為。
- 精神的に不安定なため。
- 親の介護
- 気分によって働きたくなったり働きたくなかったりする。
- 障害のある子供の介護のため。
- 働く自信がない。

4) 働くために必要なこと

「障害にあった仕事である」ことや、「勤務時間や日数の短縮などの配慮がある」こと、「周囲が自分の障害を理解してくれる」ことという回答が多かった。また、難病患者の半数は、通院などの保障の必要性を回答していた。発達障害のある人のみに限定すると、身体障害者を除いて、「周囲が自分の障害を理解してくれる」ことが、「障害にあった仕事である」を上回る。

〈複数回答〉

	身体障害 (n=776)	知的障害 (n=484)	精神障害 (n=609)	発達障害 (n=33)	難病 (n=49)
1位	障害にあった仕事である (34.9%)	障害にあった仕事である (43.0%)	勤務時間や日数の短縮などの配慮がある (42.9%)	周囲が自分の障害を理解してくれる (66.7%)	通院などの保障があること (57.1%)
2位	周囲が自分の障害を理解してくれる (29.9%)	周囲が自分の障害を理解してくれる (37.6%)	周囲が自分の障害を理解してくれる (40.2%)	障害にあった仕事である (60.6%)	勤務時間や日数の短縮などの配慮がある (51.0%)
3位	勤務時間や日数の短縮などの配慮がある (26.0%)	職場により指導者や先輩がいる (36.4%)	職場により指導者や先輩がいる (33.2%)	コミュニケーション支援が充実している (57.6%)	周囲が自分の障害を理解してくれる (42.9%)
4位	通勤手段が確保できる (21.6%)	コミュニケーション支援が充実している (27.5%)	障害にあった仕事である (29.6%)	職場により指導者や先輩がいる (57.6%)	障害にあった仕事である (30.6%)
5位	賃金が妥当であること (19.2%)	通勤手段が確保できる (24.6%)	賃金が妥当であること (29.1%)	通勤手段が確保できる (45.5%)	賃金が妥当であること (22.4%)

「その他」の具体例

- パソコンや文房具など自分に合ったものが必要
- 同じ仕事をしている。健常者と同賃金を希望している。
- 個々の性格に合った内容の業務であること、ストレスにならないこと
- 通勤に支援が必要
- 具合が悪い時 安心して休めること
- 体調に合わせて出勤できる
- 基本的な生活習慣、生活支援が受けられる事（食生活、衣類管理、金銭管理、生活空間の整理等）

【働くため必要なこと（発達障害が重複している場合のみ）】

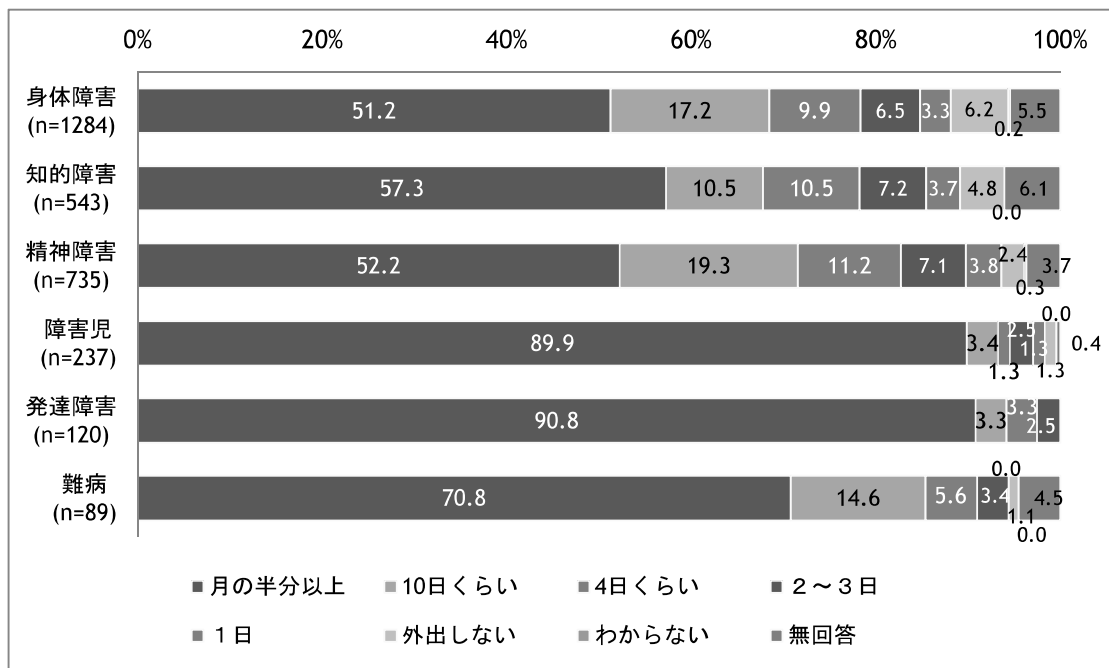
	調査票の障害種別			(再掲)
	身体障害 (n=27)	知的障害 (n=134)	精神障害 (n=61)	発達障害 (n=33)
1位	障害にあった仕事 であること (37.0%)	周囲が自分の障害 を理解してくれる こと (50.7%)	周囲が自分の障害 を理解してくれる こと (55.7%)	周囲が自分の障害 を理解してくれる (66.7%)
2位	周囲が自分の障害 を理解してくれる こと (18.5%)	障害にあった仕事 であること (49.3%)	障害にあった仕事 であること (47.5%)	障害にあった仕事 である (60.6%)
3位	勤務時間や日数の 短縮などの配慮が あること (18.5%)	職場により指導者 や先輩がいること (42.5%)	職場により指導者 や先輩がいること (45.9%)	コミュニケーション 支援が充実して いる (57.6%)
	通院などの保障が あること (18.5%)			職場により指導者 や先輩がいる (57.6%)

## 4. 外出状況について

月の外出日数では、障害児と発達障害者が比較的多く、月の半分以上外出している人が9割程度いた。外出の際に利用される交通手段は自家用車または公共交通機関が多かった。重度知的障害者では単独で外出できるケースは9.5%、重度心身障害者では6.7%にとどまっている。外出の際に介助が必要な人の場合、両親のどちらかが介助者であることが多い。外出時に困ったことは概ね「特にない」と回答していたが、身体障害者については「歩道や建物に段差が多い」ことが課題としてもっとも多く挙げられていた。また、障害児や発達障害者、知的障害者や精神障害者では「周りの人の目が気になる」という回答も多かった。

### 1) 外出日数/月

月の外出日数が比較的多かったのは、障害児と発達障害者であり、9割近くの人が月の半分以上外出している。



2) 外出手段

外出の際に利用される交通手段は自家用車と公共交通機関（電車・バス・モノレール）が多かった。タクシーや送迎バスも利用されている。

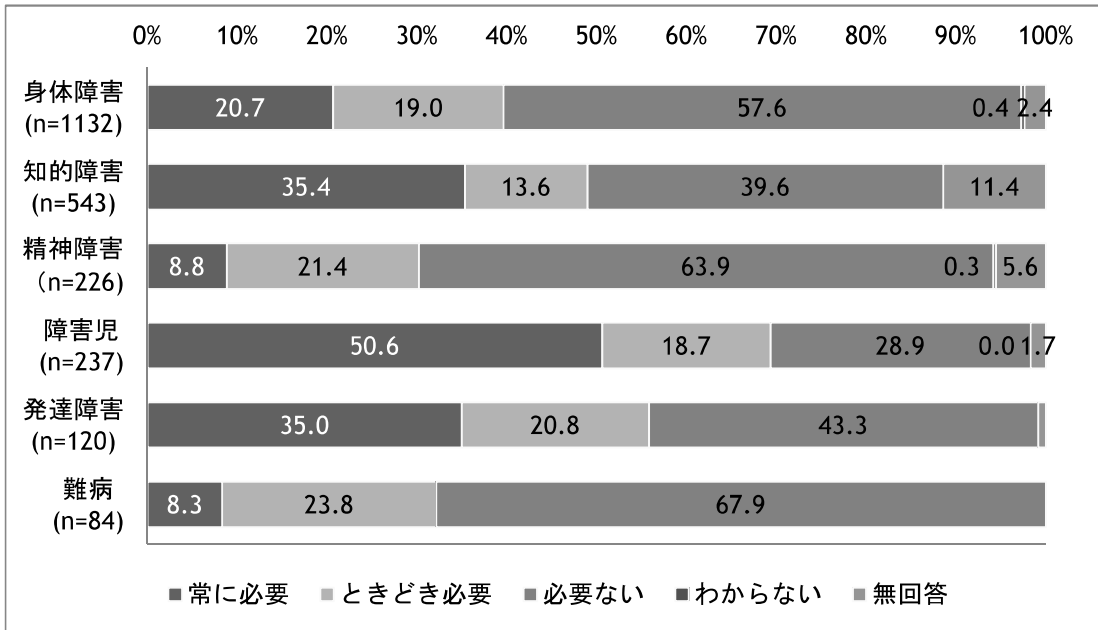
〈複数回答〉

	身体障害 (n=1132)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=735)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病 (n=89)
1位	自家用車 (自分で運転) (37.2%)	電車・バス・ モノレール (45.3%)	電車・バス・ モノレール (47.9%)	自家用車 (自分で運転) (77.2%)	自家用車 (自分で運転) (74.2%)	自家用車 (自分で運転) (47.6%)
2位	電車・バス・ モノレール (31.6%)	徒歩・自転車 (36.5%)	徒歩・自転車 (44.8%)	徒歩・自転車 (45.6%)	徒歩・自転車 (64.2%)	自家用車 (自分で運転) (40.5%)
3位	自家用車 (自分で運転) (29.2%)	自家用車 (自分で運転) (36.3%)	自家用車 (自分で運転) (26.3%)	電車・バス・ モノレール (30.0%)	電車・バス・ モノレール (43.3%)	電車・バス・ モノレール (33.3%)
4位	徒歩・自転車 (24.5%)	送迎バス (23.0%)	自家用車 (自分で運転) (23.7%)	送迎バス (26.6%)	送迎バス (19.2%)	徒歩・自転車 (29.8%)
5位	タクシー (18.4%)	無回答 (9.2%)	タクシー (11.2%)	車いす・ 電動車いす (5.5%)	自家用車 (自分で運転) (3.3%)	タクシー (16.7%)
6位	送迎バス (12.0%)	タクシー (7.9%)	送迎バス (6.8%)	自家用車 (自分で運転) (2.5%)	タクシー (2.5%)	送迎バス (8.3%)
7位	車いす・ 電動車いす (7.7%)	その他 (5.3%)	その他 (6.7%)	タクシー (2.5%)	福祉有償 運送や福祉 タクシー (2.5%)	車いす・ 電動車いす (1.2%)

3) 外出する際の介助について

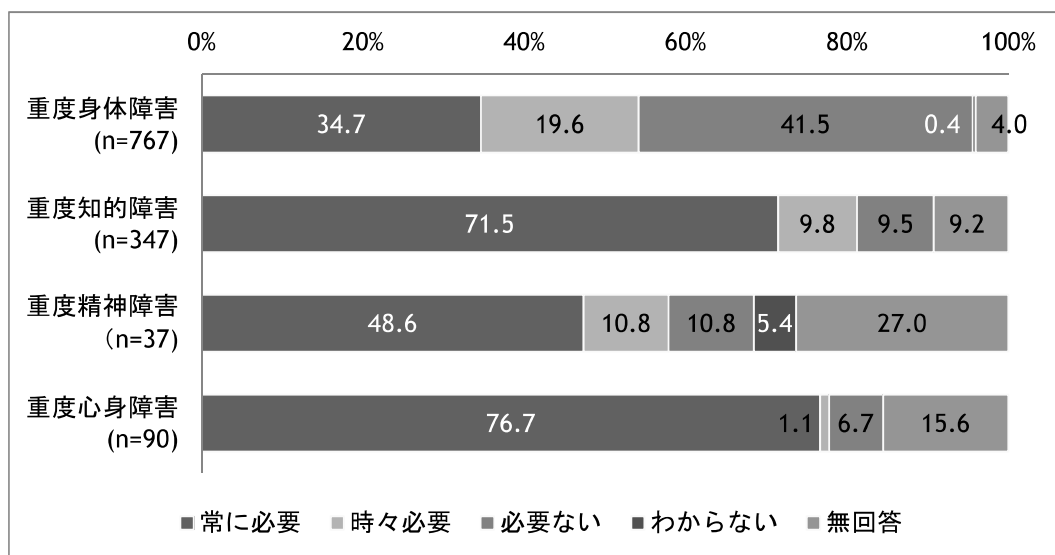
①外出時の介助者の必要性

外出の際に介助が必要な人の割合は、障害児と発達障害者が高く、障害児では「常に必要」「時々必要」を合わせると、約7割が単独での外出が難しい状況にあることが推察された。



【外出時の介助者の必要性（重度障害者のみ）】

重度障害者に限定してみると、外出時に介助者を「必要ない」としていたのは重度知的障害者の場合は9.5%、重度心身障害者では6.7%であった。



備考) 全回答者のうち、それぞれ身体障害者手帳1・2級保持者、療育手帳A1・A2保持者、精神障害者保健福祉手帳1級保持者、身体障害者手帳1・2級と療育手帳A1・A2の両方を保持している人。



②外出時の主な介助者

外出の際に介助者が必要な場合、両親のどちらかが介助者のことが多く、知的障害者については施設職員が介助者となる場合がある。

〈複数回答〉(%)

	身体障害 (n=449)	知的障害 (n=266)	精神障害 (n=222)	障害児 (n=163)	発達障害 (n=67)	難病 (n=27)
配偶者	37.6	1.9	30.6	0.6	0.0	70.4
父	8.5	35.7	15.3	60.1	65.7	3.7
母	18.7	69.5	35.6	96.3	98.5	14.8
子ども	35.0	1.5	17.6	0.0	0.0	29.6
祖父母	0.2	2.6	0.9	20.2	14.9	3.7
兄弟姉妹	8.9	18.4	15.8	9.8	11.9	7.4
その他親族	4.5	2.3	5.4	3.1	0.0	3.7
隣人・友人	5.8	2.3	8.1	1.8	1.5	7.4
ホームヘルパー	13.6	15.0	2.7	3.7	22.4	0.0
施設の職員	28.5	51.1	15.3	17.8	26.9	7.4
民間介助サービス (自費)	4.5	1.1	0.9	1.8	6.0	0.0
ボランティア	1.1	0.0	0.9	1.2	0.0	3.7
雇用人 (家政婦)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	4.2	1.1	3.2	2.5	0.0	7.4
無回答	1.1	1.5	2.3	0.6	0.0	0.0

「その他」の具体例

■介護タクシーの運転手 ■訪問看護師 ■外出先の従業員 ■学校の先生

4) 外出時に困ったこと

外出時に困ったことは「特にない」という回答が多かったが、身体障害者については「歩道や建物に段差が多い」ことが課題としてもっとも多く挙げられていた。また、障害児や発達障害者、知的障害者や精神障害者では「周りの人の目が気になる」という回答も多かった。

〈複数回答〉

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=735)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病 (n=84)
1位	歩道や建物に階段や段差が多い (37.9%)	歩道や建物に階段や段差が多い (17.9%)	発作など突然の身体の変化が心配 (23.7%)	周りの人の目が気になる (23.2%)	周りの人の目が気になる (24.2%)	歩道や建物に階段や段差が多い (25.0%)
2位	休憩スペースが少ない (15.8%)	周りの人の目が気になる (17.5%)	周りの人の目が気になる (22.9%)	歩道や建物に階段や段差が多い (19.4%)	困ったときまわりの人が助けてくれない (15.0%)	休憩スペースが少ない (21.4%)
3位	タクシーを利用することが多く経費がかかる (13.9%)	発作など突然の身体の変化が心配 (12.9%)	休憩スペースが少ない (17.0%)	歩道がなく、また狭いため安心して通行できない (14.8%)	横断歩道などで車が止まってくれないなどの危険が多い (10.8%)	歩道に障害物が多い (15.5%)  タクシーを利用することが多く経費がかかる (15.5%)
4位	歩道に障害物が多い (13.2%)	休憩スペースが少ない (10.9%)  横断歩道などで車が止まってくれないなどの危険が多い (10.9%)	歩道や建物に階段や段差が多い (13.9%)  公共交通機関の料金割引サービスがないものがあり経費がかかる (13.9%)	横断歩道などで車が止まってくれないなどの危険が多い (13.5%)	休憩スペースが少ない (10.0%)  介助してくれる人がいない (10.0%)	発作など突然の身体の変化が心配 (15.5%)
5位	発作など突然の身体の変化が心配 (11.6%)	横断歩道などで車が止まってくれないなどの危険が多い (10.9%)		休憩スペースが少ない (11.4%)		

備考)「特にない」は順位に含めていない。

「その他」の具体例

- 家族・施設の人以外とは言語が不明瞭なので、しゃべることができない。
- 同じものを何個も買ったり高額な商品を騙されて買ってしまう。
- 音楽、鳥の鳴き声。
- 公共のトイレに大人用のおむつ替えベッドが欲しい。
- 困った時に自分から言えない。交通機関が理解できない。
- エレベーター、障害者トイレの利用者が増え、待つのに時間がかかる。

5) 公共施設利用時に困ったこと

「外出時に困ったこと」と同様に、公共施設利用時に困ったこととして「階段や段差が多い」こと、「周りの人の目が気になる」という回答の他、「休憩スペースが少ない」という回答も目立つ。

〈複数回答〉

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=735)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病 (n=84)
1位	階段や段差が多い (31.6%)	周りの人の目が気になる (16.8%)	周りの人の目が気になる (23.5%)	周りの人の目が気になる (23.2%)	周りの人の目が気になる (24.2%)	休憩スペースが少ない (31.0%)
2位	障害者用の駐車場が少ない (19.7%)	階段や段差が多い (16.4%)	休憩スペースが少ない (21.4%)	障害者用の駐車場が少ない (19.4%)	困ったとき周りの人が助けてくれない (14.2%)	階段や段差が多い (19.0%)
3位	休憩スペースが少ない (18.6%)	休憩スペースが少ない (13.4%)	階段や段差が多い (12.1%)	歩道がなく狭いため安心して通行できない (14.8%)	休憩スペースが少ない (7.5%)	障害者用の駐車場が少ない (14.3%)
4位	施設内にエレベーターが少ない (12.8%)	困ったとき周りの人が助けてくれない (10.5%)	困ったとき周りの人が助けてくれない (7.1%)	横断歩道などで車が止まってくれないなどの危険が多い (13.5%)	設備や施設の配置についての標示が分かりにくい (7.5%)	施設内にエレベーターが少ない (10.7%)
5位	車いす使用者用のトイレが少ない (11.0%)	障害者用の駐車場が少ない (8.8%)		休憩スペースが少ない (13.1%)		施設内に視覚障害者用の点字ブロックや音声案内などの設備が少ない (7.1%)

「その他」の具体例

- 公衆電話が少ない。
- 障害者用トイレに一般の人が入り長時間利用している。
- トイレの中にオムツを替える大人用のベッドがない。
- 放送が理解できない、聴こえない。
- 障害者用駐車場に健常者が堂々ととめていかれる事。
- 知的障害者は障害者用スペースにとめられない。

## 5. 余暇活動や社会的活動について

どの障害においても、「買い物」が最も多く行われている余暇活動である。また、精神障害者以外では「ドライブや旅行」も多く、「映画やコンサート、演劇などの鑑賞」も比較的多く行われている。これらの余暇活動は、今後行ってみたい活動としても選ばれる傾向が強かった。一方、地域行事や地域活動については「参加していない」という回答が全体的に多かった。

## 1) 行っている活動

〈複数回答〉(%)

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=735)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病 (n=89)
映画やコンサート、 演劇などの鑑賞	16.3	19.9	17.6	23.6	28.3	26.2
スポーツ	7.7	10.7	11.4	21.9	27.5	13.1
バスハイクなどの レクリエーション	5.1	12.7	4.9	3.0	10.8	9.5
ドライブや旅行	21.0	23.2	15.2	37.1	37.5	27.4
パソコン教室などの 学習活動	1.9	0.9	1.9	3.4	3.3	1.2
文学や歴史などの 趣味・教養の講座	3.0	0.6	2.6	0.4	0.0	4.8
絵画や書道、音楽、 ダンス、劇などの サークル又は教室	3.3	5.0	4.5	10.1	10.8	7.1
カラオケやゲーム センターなどの娯楽	8.9	22.7	14.4	20.7	23.3	13.1
買い物	38.9	49.0	50.9	47.3	47.5	52.4
セルフヘルプ活動	0.2	0.6	1.4	0.0	0.8	0.0
ボランティア活動	3.4	2.9	4.1	0.8	3.3	10.7
障害者団体活動	2.3	6.4	1.4	5.9	13.3	21.4
自治会活動	4.0	2.8	2.9	0.8	1.7	7.1
その他	5.6	8.7	12.8	9.7	15.8	9.5
特に何もしていない	34.3	20.8	26.3	21.1	11.7	16.7
わからない	0.2	0.4	13.1	0.0	0.0	0.0
無回答	8.3	10.5	8.4	3.4	0.0	4.8

2) 今後、行いたい活動

現在行っている活動同様に、「ドライブや旅行」「映画やコンサート、演劇などの鑑賞」「買い物」は、今後行いたい活動でもあるが、これらに加え障害児や発達障害者では「スポーツ」という回答も見られた。

〈複数回答〉(%)

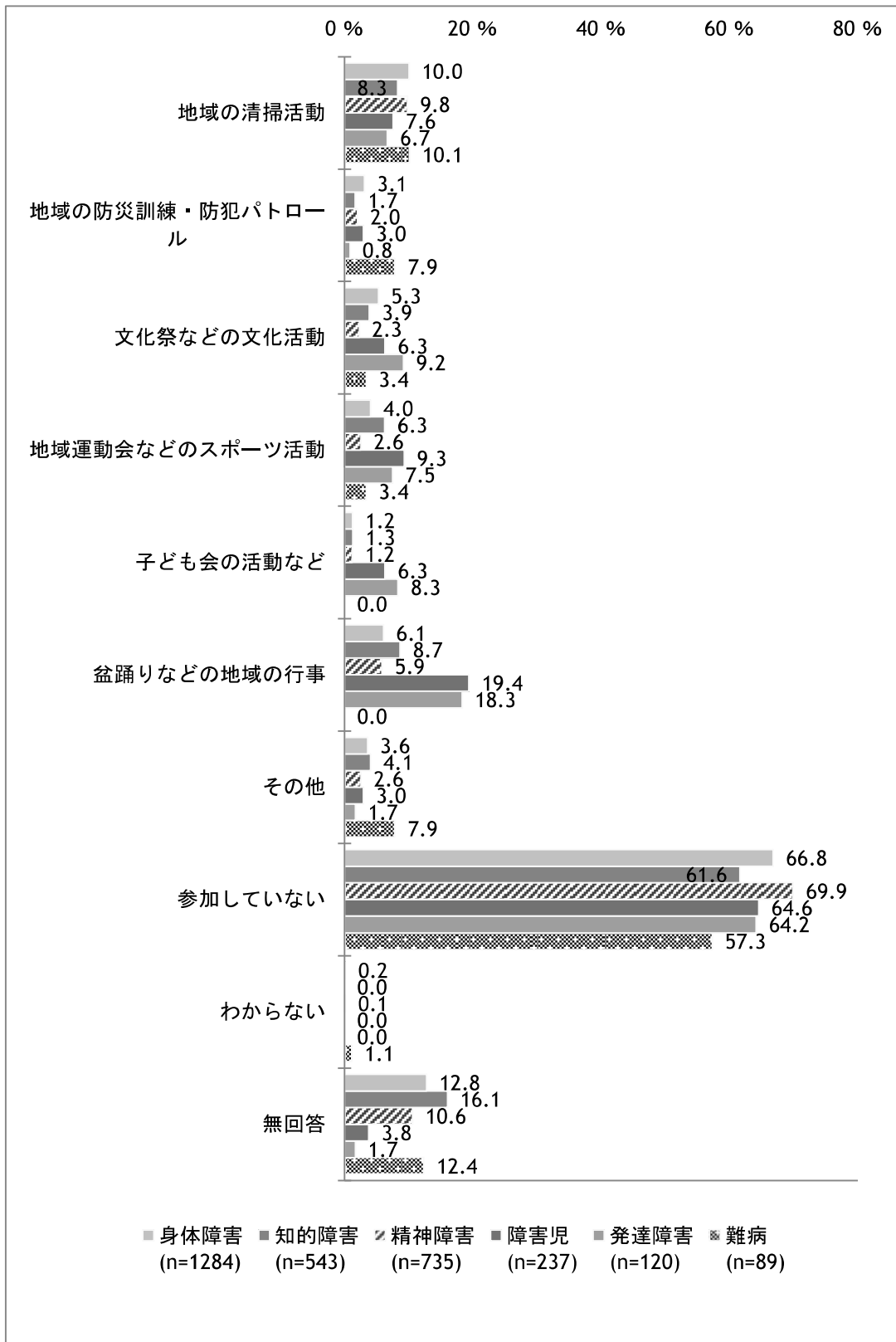
	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=735)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病 (n=89)
映画やコンサート、演劇などの鑑賞	21.0	27.6	24.1	24.5	34.2	36.0
スポーツ	10.4	14.7	19.5	37.6	36.7	23.6
バスハイクなどのレクリエーション	9.1	18.4	8.7	12.7	20.0	24.7
ドライブや旅行	28.8	29.5	26.4	33.3	39.2	31.5
パソコン教室などの学習活動	7.2	3.9	9.1	11.8	12.5	13.5
文学や歴史などの趣味・教養の講座	7.3	2.0	6.9	1.7	3.3	12.4
絵画や書道、音楽、ダンス、劇などのサークル又は教室	8.3	7.0	9.4	18.6	15.0	11.2
カラオケやゲームセンターなどの娯楽	8.6	20.1	13.1	19.4	28.3	5.6
買い物	25.0	32.6	27.3	23.6	31.7	33.7
セルフヘルプ活動	0.4	0.6	1.2	0.8	1.7	0.0
ボランティア活動	5.5	3.9	8.6	3.4	5.8	12.4
障害者団体活動	3.0	4.6	2.3	8.0	5.0	14.6
自治会活動	3.2	0.7	2.3	1.7	1.7	3.4
その他	4.1	4.1	4.8	5.9	7.5	3.4
特に何もしたくない	22.7	16.6	23.9	9.7	8.3	10.1
わからない	0.4	0.7	0.4	0.0	0.0	0.0
無回答	15.7	16.4	11.3	9.3	5.0	9.0

「その他」の具体例 ■読書 ■釣り ■旅行 ■友達と遊ぶ ■小物販売 ■ストレッチ

### 3) 参加している地域行事・地域活動

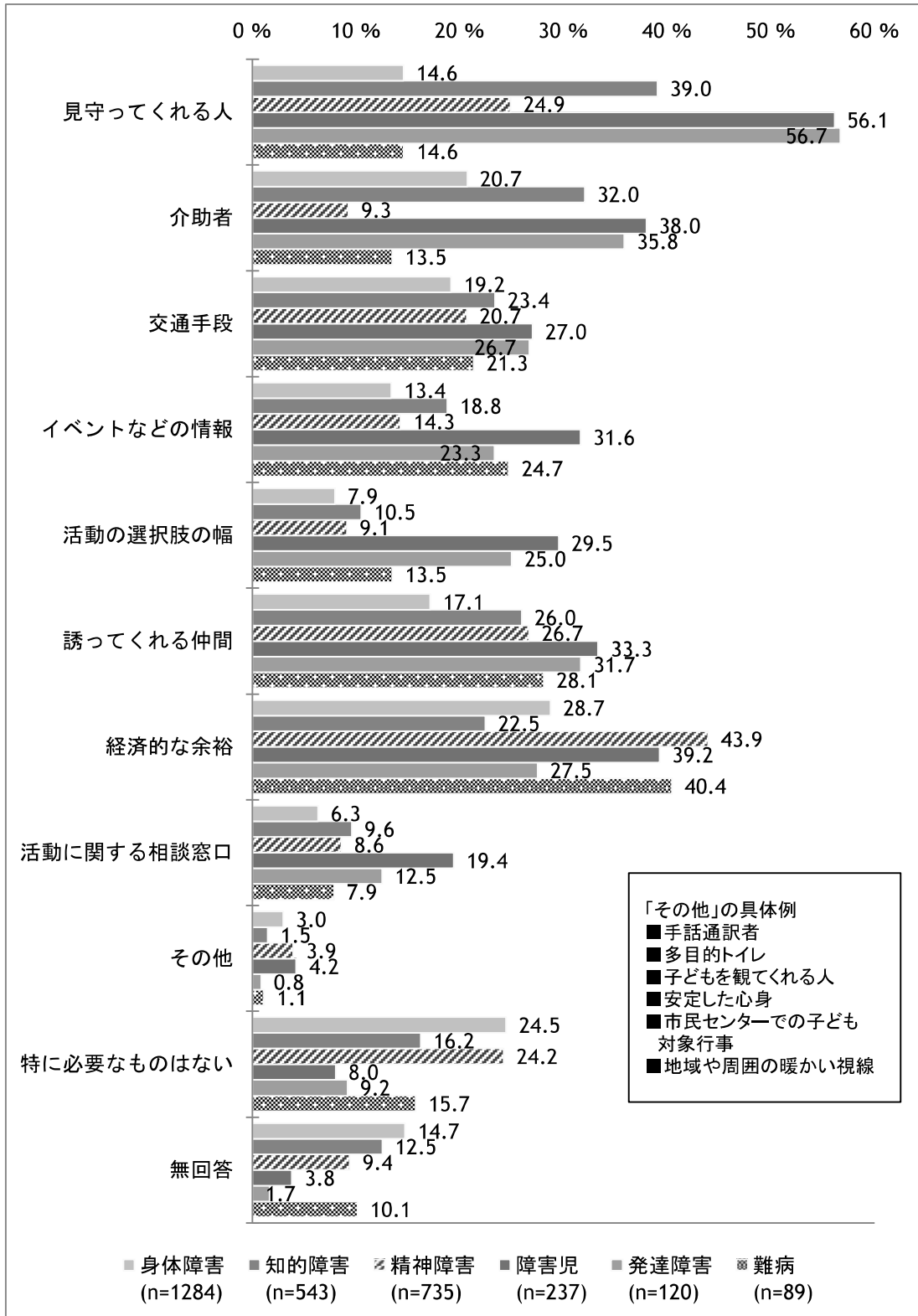
地域行事や地域活動については「参加していない」という回答が全体的に多かった。

〈複数回答〉



#### 4) 余暇活動や社会活動の参加に必要なこと

余暇活動や社会活動の参加に必要なこととして「見守ってくれる人」「経済的な余裕」と回答する人の割合が比較的多く、「活動に関する相談窓口」については必要としている人の割合は少なかった。 〈複数回答〉



## 6. 障害者スポーツについて

普段行っているスポーツで最も多かったものは、「水泳」であった。また、「ふうせんバレーボール」や「スポーツジムなどの利用」もみられる。ただ、いずれの障害においてもスポーツは「特になにもしていない」という回答が多かった。また、今後行いたいスポーツについても「特に何もない」という回答が多かったが、発達障害者では「水泳」が31.7%と最も多かった。障害者スポーツ大会への参加の経験が「ある」という人は知的障害者を除き、10%未満にとどまっていた。3割程度の障害児に今後大会に「参加してみたい」という意向がみられた。

### 1) 普段行っているスポーツ

最も多かった回答は「水泳」であった。その他、「ふうせんバレーボール」「スポーツジムなどの利用」も目立つ。

〈複数回答〉

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=735)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病 (n=89)
1位	スポーツジムなどの利用 (3.1%)	ふうせんバレーボール (6.6%)	水泳 (4.5%)	水泳 (16.5%)	水泳 (14.2%)	水泳 (10.1%)
2位	水泳 (2.8%)	マラソン・ランニング (4.8%)	スポーツジムなどの利用 (4.1%)	ふうせんバレーボール (12.7%)	ふうせんバレーボール (9.2%)	スポーツジムなどの利用 (7.9%)
3位	マラソン・ランニング (2.5%)	水泳 (4.6%)	マラソン・ランニング (3.9%)	マラソン・ランニング (9.7%)	サッカー (5.8%)	マラソン・ランニング (3.4%)
4位	ボーリング (2.1%)	ボーリング (4.2%)	卓球 (3.0%)	野球 (5.9%)	マラソン・ランニング (5.0%)	卓球 (3.4%)
5位	ふうせんバレーボール (1.9%)	ポッチャ (3.1%) フライングディスク (3.1%)	ふうせんバレーボール (2.7%)	ボーリング (4.6%)	野球 (4.2%) ボーリング (4.2%)	テニス (3.4%)

備考)「特になにもしていない」「その他」は順位に含めていない。



2) 今後行いたいスポーツ

今後行いたいスポーツとしても「水泳」や「スポーツジムなどの利用」が挙げられていた。その他、「ボーリング」という回答も上位にある。 〈複数回答〉

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=735)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病 (n=89)
1位	水泳 (10.7%)	ボーリング (12.2%)	スポーツジムなどの利用 (16.6%)	水泳 (28.7%)	水泳 (31.7%)	スポーツジムなどの利用 (22.5%)
2位	スポーツジムなどの利用 (9.3%)	水泳 (11.4%)	水泳 (15.1%)	ボーリング (13.9%)	スポーツジムなどの利用 (15.8%)	水泳 (18.0%)
3位	ボーリング (4.7%)	ふうせんバレーボール (10.5%)	マラソン・ランニング (9.3%)	マラソン・ランニング (10.5%)	ボーリング (9.2%)	マラソン・ランニング (11.2%)
4位	マラソン・ランニング (3.0%)	スポーツジムなどの利用 (8.1%)	卓球 (6.4%)	ふうせんバレーボール (10.5%)	マラソン・ランニング (9.2%)	ボーリング (7.9%)
5位	卓球 (2.4%)	マラソン・ランニング (7.7%)	ボーリング (5.7%)  テニス (5.7%)	サッカー (7.6%)	ふうせんバレーボール (9.2%)  卓球 (9.2%)	卓球 (7.9%)

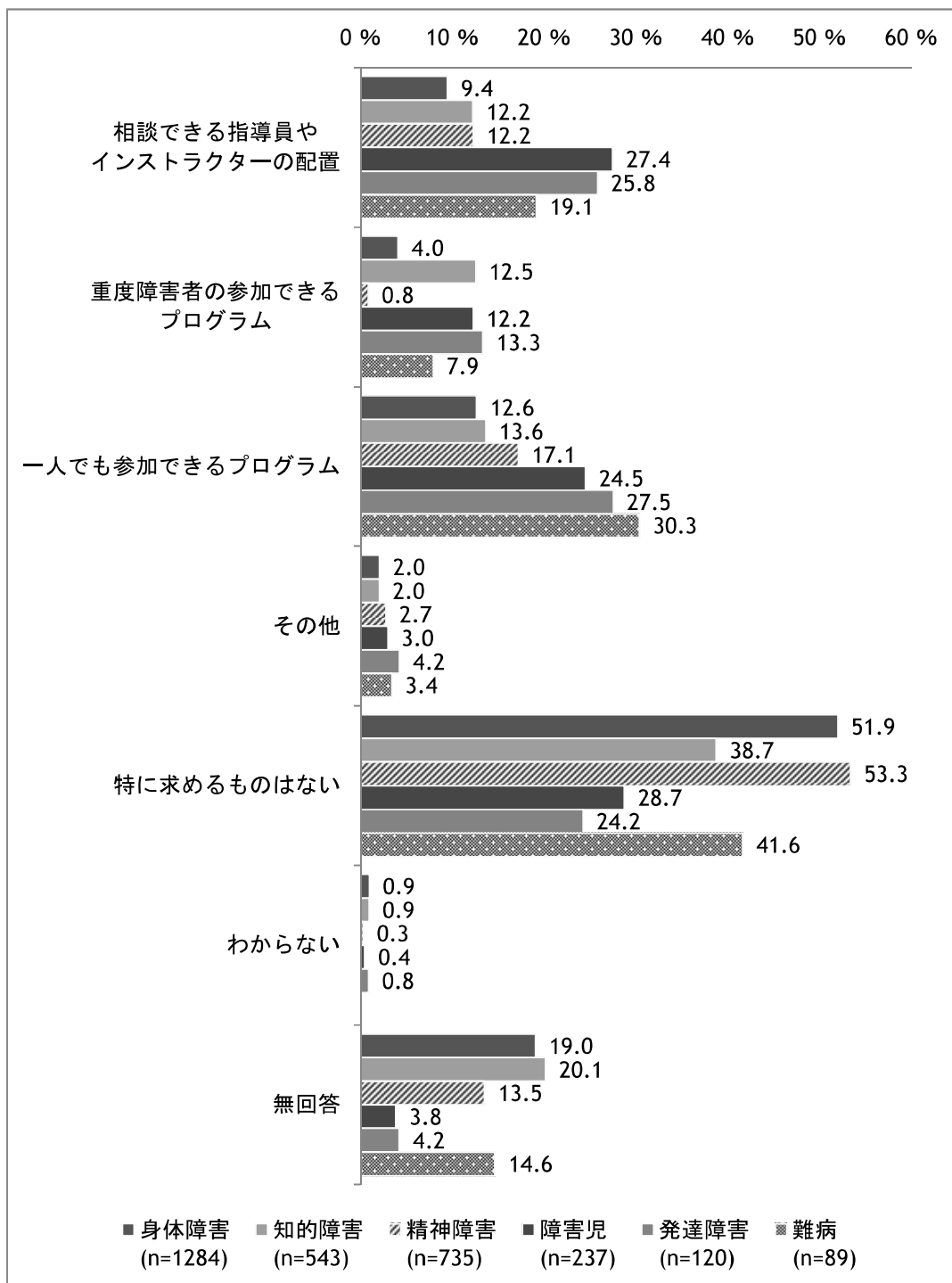
参考)「特にない」「その他」は順位に含めていない。

「その他」の具体例

■ゴルフ ■バドミントン ■ウォーキング ■ダンス ■ヨガ ■トランポリン

### 3) 障害者スポーツセンターに求めること

障害者スポーツセンターに対しては「相談できる指導員やインストラクターの配置」や「一人でも参加できるプログラム」を求める声が多くなっている。



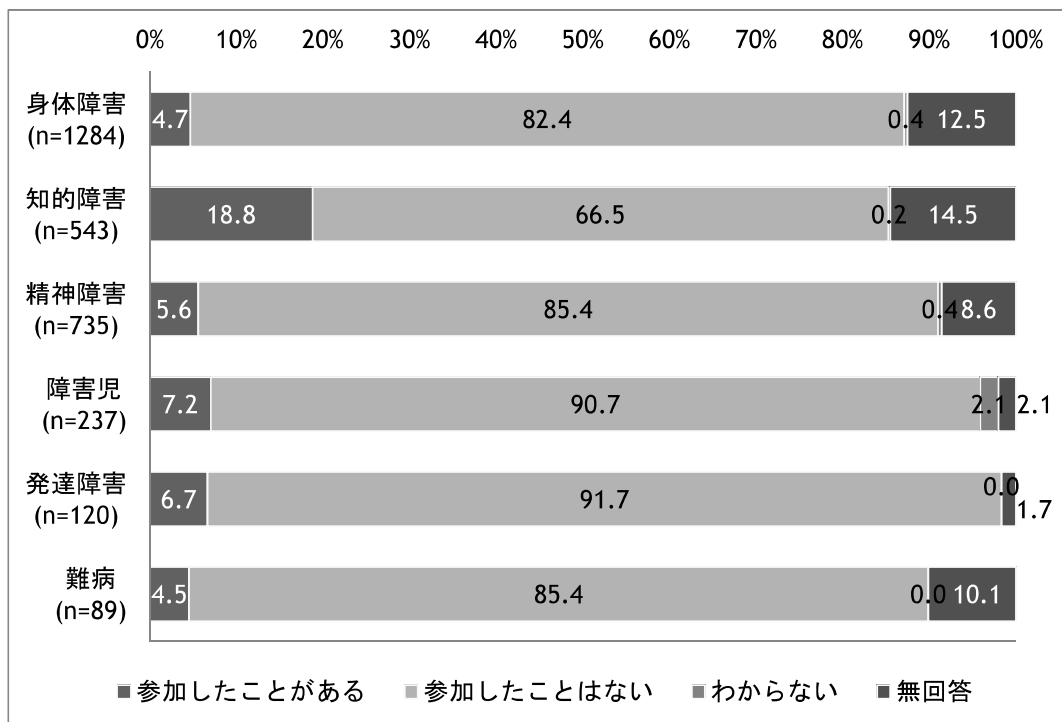
「その他」の具体例

- 送迎
- 巡回スポーツ教室
- ネット等での情報公開
- 相談窓口
- 放課後に障害児が利用できるプログラム
- 娯楽的なスポーツ

#### 4) 障害者スポーツ大会について

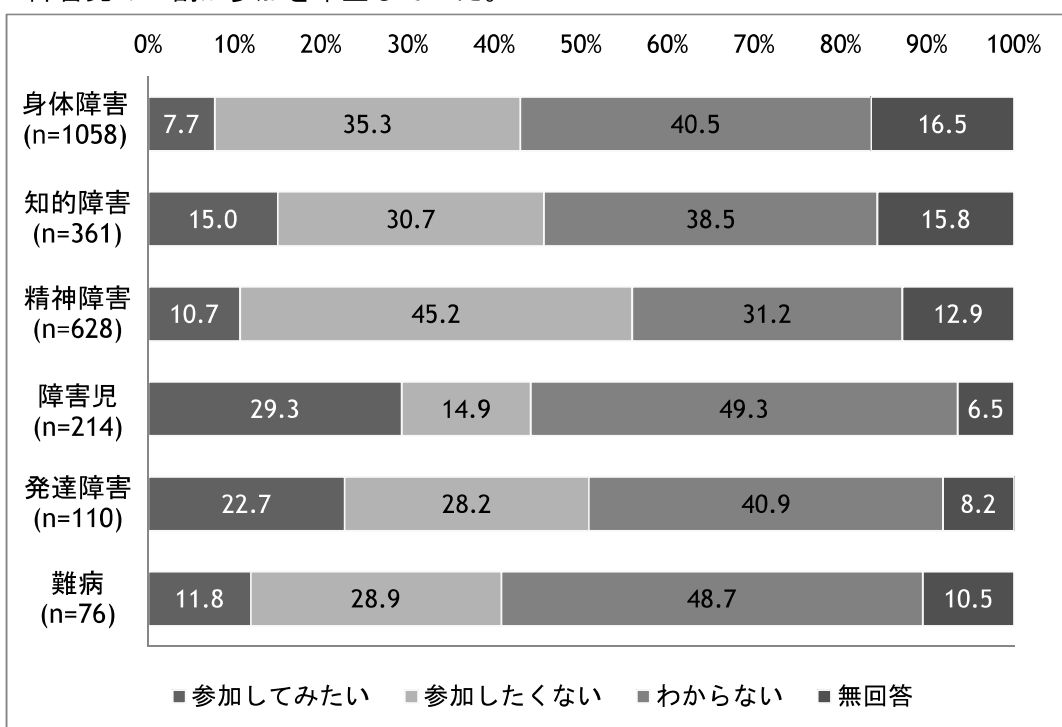
##### ①参加経験の有無

参加したことが「ある」という回答は、知的障害者以外は10%未満であった。



##### ②障害者スポーツ大会への参加希望（参加経験が無い人のみ）

障害児の3割が参加を希望していた。



③スポーツに参加するにあたってのご意見

- 参加できるスポーツをわかりやすく案内してほしい。
- 障害があっても参加できるプログラムが欲しい。
- 身近な場所で参加できるようにしてほしい。
- 移動が困難者への送迎支援。
- 応援やサポートで参加できるようにしてほしい。
- 競うだけの大会でなく踊りなどあってもいいと思う。
- イベントの案内がほしい。